

# 今後の国立大学法人等施設整備に係る方向性【概要】

令和元年6月12日  
今後の国立大学法人等施設  
整備に関する有識者会議

## 社会全体と国立大学法人等との「共創」に必要な施設整備の3つの基本的方向性

### 教育研究の多様化・高度化

～「共創」の源泉である教育研究の場としての整備～

- ・ Society5.0等への対応のための高度化、多様性・柔軟性・機動性
- ・ 高等教育・科学技術政策等との連動性（パッケージ化）

### 学生・研究者等の多様化

～多様な価値観が集まり新たな価値を「共創」する場としての整備～

- ・ 世界中から人を呼び込む重要な手段としての教育研究環境・国際交流機能

### 地域・社会との連携・協力の推進

～多様なステークホルダーとの連携による「共創」の拠点としての整備～

- ・ 地域や社会の課題解決のための実証実験の場としてのキャンパス活用
- ・ 大学等・地域双方の施設の有効活用、体制の確立

大学等の特性を発揮するため「戦略的リノベーション」等により老朽改善と同時に3つの基本的方向性に基づく施設整備を実現

## 3つの基本的方向性に基づく施設整備の実現に向けた検討事項

### ○ 「未来への投資」としての3つの基本的方向性に基づく施設整備

- ・ 大学等は、3つの基本的方向性に基づく施設整備を「未来への投資」として位置づけ
- ・ 国は、施設整備が教育研究の継続・発展に必要な不可欠であることを社会全体に対して情報発信

### ○ 「未来への投資」に向けた戦略的な施設マネジメント

- ・ 大学等は、全学的な体制、関係機関との連携の下、戦略的な施設マネジメントを実施
- ・ 大学等は、施設の有効活用・トリアージ等の効率化や個別施設計画の絶え間ない見直しにより、サステイナブルな施設整備を実現
- ・ 国は、大学等がより一層積極的に施設マネジメントに取り組めるよう、必要な方策について検討

### ○ 「未来への投資」のための国と国立大学法人等との協力体制

- ・ 大学等は、特性に応じた「経営マインド」を持ち、企業や地域等からの更なる「投資」の呼び込み
- ・ 国は、インセンティブが働く施設整備の仕組み等を検討するとともに、重点化を図りつつ、必要な予算を確保

## 国立大学法人等の施設に期待される役割

### ○ 「共創」による地域、社会、世界への貢献

- ・ 知と人材の集積拠点としての特性を最大限に発揮し、社会の様々なステークホルダーとの連携により、創造活動を展開する「共創」の拠点となることが期待
- ・ 「共創」を通じて、様々な形で地域・社会、そして世界に貢献していくことが期待

### ○ 「共創」の拠点として必要不可欠な施設整備

- ・ 国立大学法人等の活動を支える重要な基盤として、施設の整備・充実が必要

## 現状と課題

- ・ 4期にわたる「5か年計画」により、耐震化については大きく進展した一方、老朽改善については、結果的に十分には進まず  
⇒ 老朽改善の遅れを放置すると、「共創」拠点としての役割を果たせない恐れ
- ・ 法人化後の制度改正や大学等の自助努力により財源の多様化が進展
- ・ 老朽改善に対する多様な財源の一層の活用が必要

## 社会情勢等が大きく変化

SDGs、Society5.0、第4次産業革命、人生100年時代、グローバル化、地方創生、少子化、人口減少等